

ふるさとへの山に向ひて

【作詞】石川啄木
【作曲】新井 満

1.

ふるさとの 山に向ひて

いふことなし

ふるさとの山は ああ ありがたきかな

やはらかにやなぎ やなぎ 青める

北上の岸辺 目にみゅううう

泣けとごとくに

□□□

かにかくに しぶたみむらは

こいし こいし こいしかり

おもひでの おもひでの山

おもひでの川

ふるさとのなまり なまりなつかし

ていしゃばの ひとつみのなかに あゝあ

そをききにゆく

かにかくに しぶたみむらは

こいし こいし こいしかり

おもひでの おもひでの山

おもひでの川

ふるさとの山に むかいてゆうことなし

ふるさとの山は あゝあ

ありがたきかな あゝあ

ふなむしの山に向ひて

【作詞】石川啄木
【作曲】新井 満

□□■

ふなむしの 山に向ひて
いふことなし

ふなむとの山は ああ

ありがたきかな

やはらかにやなげ

やなぎ 青める

北上の岸边

目にみゆうつ

泣けとくしくに

ふなむしの山に向ひて

【作詞】石川啄木
【作曲】新井 満



かにかくに
しぶたみむらは
こいし こいし
こいしから
おもひでの おもひでの山
おもひでの川
ふるさとのなら
なまりなつかし
ていしゃばの
ひとごみのなかに あゝあ
そをききにゆく

100

【作曲】
【作詞】

石川啄木
新井満

しばたみむらは

こいし

こいしかり

おもいでのおもいで山

おもいで
の川

ふるむとの山に

むかいてゆうことなし

ふるわしの山はあゝあ

ありがたきかな

ありがたきかな

解説

• かにかくに

• 古文 とにかく あれこれと。何かにつけて。

• ふるさとの訛なつかし停車場の人ごみの中に
• **それを聴きにゆく** 石川啄木

（直訳）故郷の訛り（方言）が懐かしくて、駅の人混みの中に（方言）を話す人がいるか、と思つて、それ（方言）を聞きに行く

（注意）この歌が詠まれた時、石川啄木は上京して東京に住んでいました。故郷とは、岩手県渋民村の事です。停車場とは上野駅です。

（意識）東京で暮らしていると、故郷の岩手県の方言が懐かしくて仕方ないので、上野駅の人混みの中に岩手の方言を話す声が聞こえないかと思つて、方言を聞く為に上野駅へ行つた。